

科目名	日琉交流史			英文表記	History of Japan・Ryukyu Relations		2010年3月15日
教員名：下郡 剛							作成
対象学科	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
専攻科	1年	選択	学修	2	講義	半期	
目 標	1 沖縄地域社会の理解を目的とし、日本本土と沖縄の文化・歴史の関係性についての認識を深める。2 現代の我々とは異なる思想・価値観を理解することで、多面的なものの見方や考え方ができるようになる。3 現代と異なる形態の国家・社会・宗教等を学ぶことで、現代社会を相対的に把握できる能力を養う。						
高専目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	全プログラム	
				◎	JABEEプログラム教育目標	機械：A-1 B-1 B-4 情報：A-1 メディア：B-2 C-1 生物資源：B-3	
授業概要、方針、履修上の注意	資・史料を提示し、歴史学的方法論を併せて説明することで、科学的・論理的に考える能力を高めるとともに、リアリティーある時代像の構築に努める。フィールドワークの手法を取り入れることで、特に沖縄北部地域が日本本土との交流に果たした役割をリアルに認識できるよう努める。フィールドワークを行う必要上、受講者の人数制限を行う。人数は公用車で引率できる学生数とする。						
評価方法	試験（90％）・レポート（10％）で評価する。						
教科書・教材	担当教員が作成したものを配布する						
参考図書	東恩納寛惇全集（第一書房）						
授 業 計 画							
授 業 項 目		時間	授 業 内 容				
1. ガイダンス		2	授業内容とその進め方等を説明する				
2. 平安・鎌倉時代の日本仏教		2	琉球における仏教文化の母体となった、日本仏教について、基礎的知識を得る。対象とする時代は、琉球仏教の2大宗派となる真言宗と臨済宗を中心とし、両宗派が成立する平安時代と鎌倉時代とする。				
3. 琉球への仏教の伝来		2	近世期の琉球仏教の概要を知るとともに、それが日本から伝来してくることについて学ぶ。				
4. 琉球仏教の展開		2	日本から伝来した仏教が、古琉球期に、いかに琉球社会に定着してゆくのかを、特に禅宗を中心に学ぶとともに日琉交流における僧侶の役割を知る。				
5 僧侶を介した日本と琉球の文化交流		2	日琉禅僧の媒介としての堺商人を取り上げ、禅僧と堺商人との交流ツールとしての茶文化に注目する。その上で茶文化が日本から琉球に伝来してゆくこと、これが琉球社会の中で独自の展開を見せることについて知る。				
6. 補陀落渡海と日秀		2	琉球への仏教の伝来と定着の上で、大きな役割を果たした日秀について知ること、琉球社会と真言宗について学ぶ。さらに、その拠点となった金武観音寺と観音信仰・補陀落渡海について学ぶ。				
7. 漂到流求国記を読む1		2	漂到流求国記を読むことで、ヤコウガイ・赤木等を通じた、古代南島と日本との交流を学ぶ。				
8. 漂到流求国記を読む2		2	漂到流求国記を読むことで、観音信仰について学び、後の琉球仏教史理解の前提とする。				
9. フィールドワーク1ー漂到流求国記を読む		2	琉球大学図書館が所蔵する漂到流求国記コロタイプ複製本を使用して、古文書の調査を実施し、料紙の継ぎ目、文字の書き直し、虫食いの状態などを実際に見、触ることで、文化遺産を身近に感じ、体感できる機会を作る。				
10. フィールドワーク1ー漂到流求国記を読む		2	上記調査について、漂到流求国記コロタイプ複製本は琉球大学図書館において貴重書扱いとされており、琉球大学図書館の指定閲覧室で調査する必要がある。そのため琉球大学への往復などで多くの時間を要する。従って、授業変更をして、連続200分授業とし、琉球大学に移動した上で調査を行う。				

11. フィールドワーク 2—金武観音寺	2	「補陀落渡海と日秀」での授業で得た知識をもとに、本島内で唯一沖縄戦の戦禍を免れた寺院でもある金武観音寺に実際に赴いて、現地を視察する。そのことを通して、沖縄高専所在地の本島北部地区にある文化遺産を身近に感じ、体感できる機会を作る。	
12. フィールドワーク 2—金武観音寺	2	上記調査について、観音寺への往復などで多くの時間を要する。従って、授業変更をして、連続200分授業とした上で、現地調査を行う。	
13. フィールドワーク 3—円覚寺跡	2	日琉文化交流上大きな役割を果たした琉球臨済宗において、近世期第一位の寺格を誇った円覚寺跡に赴いて、現地を視察する。そのことで、首里城との近接性を体感し、外交上での臨済宗の意義についての認識を深める。	
14. フィールドワーク 3—円覚寺跡	2	上記調査について、円覚寺跡への往復などで多くの時間を要する。従って、授業変更をして、連続200分授業とした上で、現地調査を行う。	
15 その後の日秀	2	補陀落信仰に基づき、琉球に渡海した日秀は、その後、琉球を離れ、再度日本に戻る。彼が琉球を離れた後、布教活動を行った鹿児島での行動を追い、現地写真を見ることで、論点を廃仏毀釈にまでつなげ、金武観音寺で見た沖縄における神仏習合の残存状況と対比する。	
前期末試験	1		
学習時間合計	30	実時間	25
学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など） フィールドワーク毎にレポートを提出する。（合計2回となる）			